

総合計画（第4次基本計画）について

1 第1次基本計画から第3次基本計画まで（H19～R3）の取り組みと成果

- 第1次基本計画
東海北陸自動車道の全線開通や北陸新幹線の開業に向け、本市の骨格となる社会資本整備に取り組むとともに、高岡開町400年を契機に、本市の歴史・文化資産の価値を改めて再認識した。
- 第2次基本計画
北陸新幹線が開業し、「ひと・モノ・情報」の流れが飛躍的に拡大するとともに、北陸自動車道のスマートIC設置や能越自動車道の延伸など、交流・都市基盤の整備を進め、「都市の強み」を着実に構築してきた。また、高岡銅器・漆器、越中福岡の菅笠など、ものづくりのまちに受け継がれた伝統技術の保存・継承に取り組むとともに、金屋町の重伝建選定や日本遺産の認定、国宝瑞龍寺や勝興寺の保存修理など、開町400年で再認識した歴史・文化資産の保存・活用を図ることで、「まちの魅力」を磨きあげてきた。
- 第3次基本計画
「市民創造都市 高岡」の実現を掲げ、北陸新幹線開業や東海北陸自動車道全線開通を活かした交流・観光に取り組むとともに、居住機能や都市機能の適切な誘導を図るコンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりを推進している。また、人口減少対策として子育てや教育環境の充実などに重点的に取り組んでいる。

2 策定の視点

- 人口減少・少子高齢化が進行していく中で、中長期的（20～30年後）なスパンで将来のあるべき姿を考えることが求められており、これまで本市が取り組んできたまちづくりの成果を土台に、Society5.0への対応やコンパクト・アンド・ネットワークのまちづくり、さらにはSDGsの推進など、時代の潮流も意識した施策等を検討する。
- 策定にあたっては、「次の世代」から共感を得ることができるまちづくりを進めていくという視点が不可欠。
- そのため、今ある行政サービスや公共施設機能、インフラ等を合理的かつ効率的に維持・活用しながら、時代に応じた「変革」に取り組むまちづくりを目指していく。

3 第4次基本計画のキーワード

- キーワードは、「ひとの力」。
- 第4次基本計画では、人口減少・少子高齢化が進展する中、第3次基本計画までに磨いてきた「都市の強み」と「まちの魅力」を最大限に活用することがポイントとなる。
- 「都市の強み」と「まちの魅力」を活用するのは、地域で生活を営み、各種の活動に取り組む、本市に関わる個人や団体など全ての「ひと」である。
- 全ての「ひと」が、その個性や能力を社会の中で発揮できる個としての「ひとの力」と、個々の力が支え合うことで生まれる「地域の力」を引き出し、つなげていくことで、将来にわたって持続可能で進化し続けられるまち、地域の実現を目指していく。